

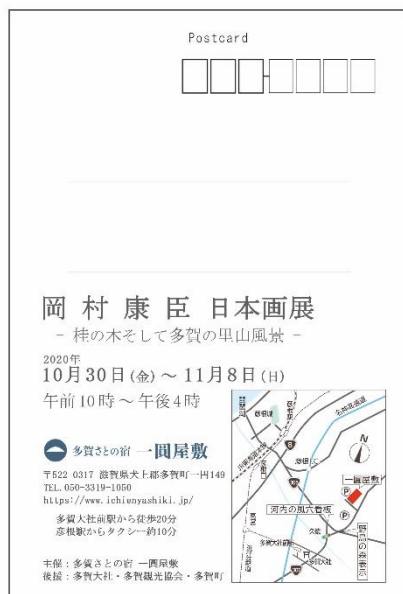
# 岡村康臣 日本画展 - 桂の木そして多賀の里山風景 -

会期：2020年10月30日～11月8日

会場：多賀さとの宿 一圓屋敷

主催：多賀さとの宿 一圓屋敷 後援：多賀大社・多賀観光協会・多賀町

## 「展示会の案内はがき」



本展示会は当初は2020年の6月開催を予定していましたが、コロナウィルス感染症の感染拡大にともない10月に延期しました。

感染対策のため記帳台上に消毒用アルコールを設置し、玄関、大広間縁側、渡り廊下側の戸を常に開け放した状態で開催しました。

#### ◆展示会開催の経緯

この度の個展開催のお話を「多賀さとの宿一圓屋敷」の方からいただいたのは、2019年秋のことでした。一圓屋敷の方が私に興味を持ってくださったのは、私が学生の頃から約20年、多賀町向之倉にある桂の巨樹を描き続けてきたからでした。

そのときの屋敷の方のお話から桂の木は同町多賀大社の古例大祭(多賀まつり)で、富ノ木(とみのき)と呼ばれ「富ノ木渡し式」という祭事に用いられていることを知りました。またそのさいに使われる桂の木を、今日にいたるまで先祖代々お守りしてきた役目の家が今でもあるそうです。

一圓屋敷は多賀町一円集落にあって、もともと庄屋の屋敷でした。それを2019年に宿泊施設として開業されています。

当初から展示内容は、これまでに描いてきた多賀の桂の木を描いた30号(91×73cm)サイズから120号(194×130cm)サイズまでの大作をメインにして、他に小品の多賀町内の里山風景を描いた作品を展示するというところで企画しました。

#### ◆制作と展示準備

一般的に日本画とは、和紙や絹などに墨や岩絵の具、水干絵の具などを使って描いたものをいいます。野外の風景などを対象とする場合には、岩絵の具での着彩などの制作過程において現場での制作は難しいので、まずは現場でスケッチをします。それを元にアトリエでイメージをふくらませて日本画の制作をします。

これまでも多賀町内でスケッチを度々していましたが、改めて町内全域にわたって取材に回りました。そしてここはという場所ではスケッチをしました。里山の集落や民家、広々とした田畑、谷深い清流、山奥の神社や地蔵など、そして桂の木もいくつか回りました。スケッチ取材がおおかた終わると、新たな制作を進めながら過去の桂の作品のどれを選び、どのように展示するかなど考えました。

今回の個展はギャラリーなどとは違い床の間などはあるものの展示設備の整っていない会場だったので、配置場所や展示の仕方に苦慮しました。

#### ◆展示会を終えて

会期中は多賀町の方をはじめ、県内外から多くのご来場をいただきました。桂の木のある向之倉の元住民の方々も来られて、住まわれていた当時の貴重なお話をお聞きすることもできました。

最後に本展示会の企画、宣伝告知そして作品の搬入出、会期中の作品の解説などをしていただいた一圓屋敷の方々、ならびに関係者の方々に深くお礼と感謝を申しあげます。

## 「会場に掲示した挨拶文」

ご来場の皆様へ

この度は「岡村康臣日本画展 ー桂の木そして多賀の里山風景ー」にお越しいただきまして、どうも有り難うございます。

今回で12回目の個展となります。どうぞごゆっくりご覧ください。

### 「桂の木の作品について」

学生のときにモチーフを求めて滋賀県各地を回ってスケッチするなかで、多賀町向之倉の桂の木に出会いました。向之倉の桂はそれまで自分が見てきたなかで、圧倒的に大きな木でした。その時の感動は今でも覚えています。それ以来、大学院を修了してから今に至るまで、大作の制作では主に桂の木を描いています。

桂の木の魅力はその巨大さと、主となる大きな幹が10本前後の株立ちになっている姿です。そして、そのうち数本は枯れたり朽ちたりしているのに対し、外周はぐるりと若いひこばえに囲まれています。その様に木の生命の強さと自然の神秘的な不思議さを感じます。作品を通して、桂の魅力的な姿と自然の偉大さを表現できればと思っています。また、その樹齢数百年と言われる木を大切に守ってこられた人々の想いも込めたいと思っています。

### 「多賀の里山風景作品について」

学生の頃から彦根に住んでいるので、近場でスケッチに行こうとすると、琵琶湖か荒神山周辺か、多賀を含めて湖東地域の里山でした。今回展示はしませんが、初めて出品した彦根市美術展では、大滝神社内の犬上川を描きました。私は宮崎県の山育ちなので、多賀町の里山風景をいつも親しみを持って眺めていました。

本個展にむけての本画制作のために、改めて多賀町各地を回ってスケッチをしました。そのなかで、バリエーションに富んだ多賀町の自然の豊かさと、奥深さを感じました。

水田や麦、蕎麦畑が広がる平野部から、山奥の集落にかけての変化に富んだ自然風景の移り変わりがあります。もちろん四季の変化もすばらしいです。そして住民の方々の多賀大社をはじめとする神仏に対しての信仰、くわえて地域への強い愛着、その自然に対する愛情を強く感じました。作品を通じて多賀町のそれらの魅力を少しでも感じていただければと思います。

岡村 康臣

「展示目録」

岡村康臣 日本画展 — 桂の木そして多賀の里山風景 — 展示目録

「桂の木」

市町村	題名	号数	タテ×ヨコ(cm)	字名	制作年
多賀町	満ちる	F120	194×130	屏風	2020
”	慈しみ	F120	130×194	向之倉	2017
”	兆し	F120	194×130	向之倉	2015
”	向之倉(鉛筆スケッチ)	M100	97×162	向之倉	2015
”	兆し(鉛筆デッサン)	S50	117×117	向之倉	2017
”	こと去る(鉛筆デッサン)	F50	91×117	向之倉	2017
”	月下	F50	91×117	向之倉	2015
”	兆し	P50	117×80	向之倉	2013
”	ともに	P50	117×80	向之倉	2012
”	兆し	S30	91×91	向之倉	2014
”	桂	F4	24×33	屏風	2020
”	桂	色紙	24×27	屏風	2020
余呉町	桂	F6	41×32	中河内	2020
(宮崎県) 日之影町	こと去る	S100	162×162	諸和久	2019
”	こと去る	S50	117×117	諸和久	2018
”	桂	F6	32×41	諸和久	2019

「多賀の里山風景」

場所	題材	号数	タテ×ヨコ(cm)	字名	制作年
多賀町	高松神社	F4	24×33	八重練	2020
”	飯盛木・青竜山	色紙	24×27	尼子	2020
”	衣笠地藏・桜	色紙	24×27	一円	2020

“	犬上川	色紙	27×24	萱原	2020
“	水田・青竜山	色紙	24×27	久徳	2020
“	民家・山	色紙	24×27	栗栖	2018
“	杉坂峠	色紙	24×27	栗栖	2020
“	大滝神社御旅所	色紙	24×27	富之尾	2020
“	乳地蔵・薩摩杉	色紙	27×24	保月	2020
“	蔵・桃	色紙	24×27	桃原	2020
“	麦畑・山	SM	16×23	大岡	2020
“	水田・山・桜	SM	16×23	大岡	2020
“	集落・山	SM	16×23	大君ヶ畑	2020
“	麦畑・青竜山・桜	SM	16×23	木曾	2020
“	民家・桜	SM	16×23	屏風	2020

---

計 31 点

「展示会場写真」



## 「開催模様写真」



## 「お礼はがき」

Postcard

□□□□□□□□

---

---

この度はお忙しい中、ご高覧いただきまして有り難うございました。  
おかげさまで盛況のうちに無事終えることができました。  
今回いただきました、一つのお言葉を糧に微力ではありますが、  
作品作りに精進していきたいと思ひます。

令和二年十一月

